

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（127）」

2. 日時：平成29年4月21日 13時30分～15時30分

3. 場所：原子力規制庁 7階C会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、金子管理官補佐、津金管理官補佐、近田安全審査官、  
皆川安全審査官

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

堀田首席技術研究調査官

（安全技術管理官（地震・津波担当）付）

鈴木技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：福山執行役員（発電管理室室長（許認可担当））

他12名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（格納容器破損防止対策）のうち、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）及び原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用（FCI）の対策について、説明があった。原子力規制庁から、以下の点について指摘した。

- 原子炉圧力容器外での大規模な水蒸気爆発の発生可能性は十分に小さいとしていることについて、この考え方を整理した資料を提示すること。
- 通常運転時及び事故時からデブリ落下までのペDESTAL水位管理において、ペDESTALへ流入する可能性のある経路及び流量、排出経路及び排出流量を考慮して、1mに維持することが可能であることを定量的に評価した資料を提示すること。
- 通常運転時及び事故時からデブリ落下までのペDESTAL水位管理に係る手順を整理した資料を提示すること。

（2）日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・東海第二発電所 ペDESTALでの物理現象発生を想定した場合の格納容器の健全性維持に対する対応方針